

会 議 録

会議の名称	令和2年度（2020年度）第3回つくば市行政経営懇談会		
開催日時	令和2年（2020年）12月18日（金）14:00 開会 15:50 閉会		
開催場所	つくば市役所2階 会議室201		
事務局（担当課）	政策イノベーション部 企画経営課		
出席者	委員	飯田委員、上田委員、上平委員、佐藤委員、白倉委員、永田委員、星埜委員、堀委員、水谷委員、溝上委員	
	その他		
	事務局	森政策イノベーション部長、杉山政策イノベーション部次長、大越企画経営課長、会田企画経営課長補佐、中村企画経営課長補佐、大見係長、栗島主事	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開
傍聴者数	2人		
非公開の場合はその理由			
議題	(1) つくば市が目指すべき市民参加について		
会 議 次 第	1 開会		
	2 議事		
	(1) つくば市が目指すべき市民参加について		
	3 その他		
	(1) 令和2年度（2020年度）行政経営懇談会で扱う案件について		
	(2) 第4回以降の懇談会開催スケジュールについて		
	4 閉会		

<p><審議内容></p> <p>○事務局 令和2年度、第3回つくば市行政経営懇談会を始めます。それでは早速ですが議事に入らせていただきます。進行は座長にお願いしたいと思います。座長よろしくお願いたします。</p> <p>○事務局 今回、お1人ずつ1本、マイクを御用意させていただいておりますので、御発言の際はマイクのスイッチを入れて使っていただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。</p>

○座長 お1人1本のマイクだそうですので、発言のときはオンにして、終わりましたらオフにさせていただいた方が、ハウリングが起きなくていいかなと思いますので御協力のほどお願いします。

それでは本日御議論いただく内容でございますが、次第にありますとおり、つくば市が目指すべき市民参加について、でございます。本日の会議ですが、午後3時半を終了予定として進めていきたいと思っておりますので、皆様御協力のほどよろしくをお願いします。

また、会議の公開非公開につきましてはすでに原則公開ということが決定されておりますので、本日も公開ということで進めて参ります。

次に本日の配付資料について確認したいと思っております。次第に本日使用する資料一覧がございます。御確認いただきまして過不足がある場合は事務局までお知らせください。よろしいでしょうか。では早速でございますが、議事に入らせていただきます。

第2回では委員の皆様にも令和元年度（2019年度）つくば市市民参加の推進について検証をいただいたほか、つくば市市民参加推進に関する取り組みの課題についても御意見をいただいたところでございます。今回は第2回の御意見等から、つくば市が目指すべき市民参加について協議させていただきます。それではまず事務局から説明をお願いします。

○事務局 【資料及び参考資料に基づき説明】

○座長 ありがとうございます。ただいま事務局から資料の説明等をいただいたところでございますが、これを受けて、まず資料等につきまして、御質問、御意見はございますか。よろしいですか。

それでは早速議事に入らせていただきたいと思っております。今、事務局から御案内がありましたとおり、本日、市民参加に関する取り組みの提言を考えていくということでございます。A3の資料をもとに、すでに第2回に皆さんからいただいた意見も事務局の方で取りまとめたところではございますが、とはいえ、さあ議論しましょうと言っても何からどう議論したらいいかということもありますので、もちろん最終的には皆さん、さっき終わった話だけどいいですかという形で、議論が終わった点についてまた後で御発言いただくのは全然構いませんが、取りかかりとしましてはまず、資料1

の2ページ目以降にございますように、4点ほど課題が挙げられておりますので、その課題の順番に沿ってまずは議論を始めさせていただきたいと思えます。繰り返しになりますけど、一つ一つをこなしていくということでは必ずしもございませんので、前に戻ったりして構いませんが、まずは無作為抽出による委員等候補者名簿の活用についてというあたりから、御議論いただきたいというふうに思えます。この点について、課題が真ん中に書いてありますが、公募による選考が多く実施されており、無作為抽出による委員等候補者名簿はファーストチョイスとして利用されていないと、せっかく制度をつくば市は導入したにもかかわらず、必ずしもこれが有効活用されていないのではないかという課題がありまして、それに対してどのようにしたらいいかということで、そこに3点ほど、提言に盛り込むべき内容ということも挙げてはいただいておりますが、これに限らず、どうしたらいいかというような御意見をいただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

○委員 前回の課題への対応として、図書館にチラシを設置するということがありますが、人が多いところにチラシを設置すればいいということではなく、やはり、フェイストゥフェイスの勧誘の仕方が必要になってくるのではないかと思います。例えば、市の職員が地域の区長や民生委員、学校やPTAの人に「こういう会議がある」ということで紹介するようなことも必要になってくると思えます。

○委員 ありがとうございます。チラシを置けば集まるって話でもないですから、チラシを置くのはもう当然であって、それから先にどうリクルートしていくかっていうところまで、やはり検討していくべきだという御意見だと思いますが、他にいかがでしょうか。

○委員 この無作為抽出については、御登録をいただいて、その中からランダムに選ぶということですね。ただ、そのやり方もあると思うのですが。やはりある程度、委員がおっしゃったように、例えば何か階層を分けて、この分野に詳しい人たち、関心がある人たち、コアをAクラスBクラスCクラスみたいに分けてですね、この分野に詳しい人たちの集まり、ある程度発言できるような人たちっていうのを分けて、ある課題について、その人達の中から選ぶというようなのが有効なのかなという感じがします。

あと、先ほどの、やはり宣伝の仕方なども考えているのですが、なかなか市民でこういうことが行われているっていうのは、いろいろやってもわかってない方が多いと思います。それをどういうふうにわかってもらうかというのは、やはり、フェイストゥフェイスで働きかけるか、あるいはLINEとかそういう SNS を若い人たちに使って PR するとかという手法を、PR の仕方をもう少し工夫すると。こういう時代ですから、研究しても、一番効果的なものですか、してもいいのではないかなと思います。

例えば、少し調べたのですが、TXなどは一日5万7000人近い人たちが乗っています。つくば駅と研究学園駅と万博記念公園駅を乗車する人たち。2で割っても2万9000人の人たちが乗り降りしている。人口を約24万3000人とすると、10%近い人たちが毎日乗り降りしています。こういう乗り降りしている人たちの通勤とか帰宅のときに、ちょっと声をかけられないかなと思ったりします。もちろんバスとかそういうものもありますけど。あとは、例えば病院の待合室とかですかね。あとバスとかタクシーに乗っているときとか、いろんなメディアで知らせる方法はあると思うのですが、フェイストゥフェイスに加えて、そういったものを有効に活用すると、ただ、広告の方法として、図書館にチラシを置いても、たくさんあって絶対に見ないと思います。あんなに10も20もあって、まず目につかないと。パンフレットを置いても、よほど関心がないと手に取る人はいないような気がします。そのため、本当に効果的なのは、やはりフェイストゥフェイスで声かけて話かけるのが一番ですが、若い、気軽にLINEとかそういう SNS を使って、そういうやり方をするというのがよろしいのではないかと。

あと、無作為で選ばれた人について、考えが一つあるのですが、裁判員制度などは、このあいだお話があって、ああいうものには選ばれると、特に職場で働いている人は特別休暇をもらえるので、有給を使わなくて結構です。ただ、市民のこういう代表に選ばれた場合には、おそらく職場では働いている人は駄目だと思います。自分で有給とっていくしかないかと。そのため、例えば職場でそういうのが選ばれた場合には、その上席者がぜひそれは出てくださいとかそういうような、何か仕組みや働きかけもあっていいのではないかなと思いました。

- 座長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。基本的にもう一度確認ですが、無作為抽出の委員の名簿を作る時のやり方、簡単にもう一度説明していただいてもよろしいですか。
- 事務局 まず無作為抽出をする際ですが、住民基本台帳から無作為に抽出しております。依頼する際に書類の中に、第1希望から第3希望まで、参考資料ですと45ページになるのですが、登録同意書というものがあり、第1希望から第3希望までマルをつけていただいて、こちらから会議の委員になっていただく際には、第1希望を優先して、お声掛けさせていただくような形になっております。例えば今回の行政経営懇談会ですと、7番の総務行政と、会議の内容としては市政の運営であったり、男女共同参画であったりといった分野に御関心のある方、こちらを第1希望にされた方。もし、第1希望にされている方がいらっしゃらなかった場合は第2希望の方という形で、関心が近い分野を声掛けさせていただいているような形になります。名簿の登録自体もランダムに登録されておりますので、その名簿の上から順にお声がけをさせていただいているような状況です。
- 座長 今、45ページを見て思ったのですが、確かに8その他ってありますが、全部、どれでもいいっていう選択肢があってもいいかもしれませんね。今までだと三つしか、どうしても選べませんが、すべてに関心あるという市民の方もいらっしゃる可能性もありますから。三つに限らなくてもいいのかなっていう気がしましたが。というような意見も含めていかがでしょうか。
- 委員 無作為抽出というものが、やはり住民基本台帳からされているということ。それも一つの指標ではあるかもしれないのですけれども。以前、私が地区の、全然違うまちづくりの会議に出たときに言われた意見がすごく私は記憶に残っていて、選挙は1人1票だけど、株主総会は株を持っている人の方が、意見が強い。探し方で全然、1人当たりの意見とか力というのが全然違うという話がありました。確かにそうだなと。確かに研究学園都市地区は人が多いですけれども、筑波地区などの周辺地区にはたくさんの土地をお持ちの地権者がたくさんいらっしゃって、つくば市のまちを考えていくときに、みなさんそれぞれ1人として意見を聞くのでいいのかっていう、今まで考えたこともなかった発見だったので、住民基本台帳っていうのは一つの選び方

ではあるけれども、もっと違う選び方があるのではないかって、そういうのを考えていただけるといいのではないかと思いました。

あと、もう一つですけど、参考資料6の意味が少しわかりづらくて。これってというのは、人口に対する応募者という表かと思うのですが、これを見ると、研究学園都市地区は人口も多いし、だから応募者も多いという意味かもしれませんが、計算してみると例えば研究学園都市地区33人を割ることの人口7万人で0.47%、荃崎が5人に対して人口2万人で計算してみると0.5%で荃崎の方が多いです。ですので、この表の意味がよくわからない。計算のやり方でデータが違ってくるのでこの参考資料6の見方をもう一度教えていただきたいのでお願いします。

○座長 事務局をお願いします。

○事務局 今、委員おっしゃるように、パーセンテージで言いますと、確かに荃崎であったり、筑波であったり、豊里であったりの方が多くなると思うのですが、実際の市民委員に応募している傾向ということを出しているということで、パーセンテージではなくて、実数での表になっていますので、当然、研究学園都市地区、人口が多いところから多くなっているのですが、割合で見ると必ずしもそうじゃないということで、人口が多いところからは、他に比べると多く出ているっていうような事を示している資料です。

○座長 貴重な御意見ありがとうございました。そういう意味では資料6に、人口比のパーセンテージも合わせて加えていただけると、より、偏りのないデータとして判断できるという気はしますので、また次、資料作る時にはそんな作業もしていただければと思います。とはいえ、一方で、人口比で出ればそれで公平かという、必ずしもそうではないという悩ましい問題がありまして。地区代表ではないですけど、やはりつくば市の中で地域をある程度網羅しているということも重要な要素であることは間違いないというふうには思います。

委員からメールでいただいている情報ですと、国連のように、地域代表みたいな形、要するに地域を加味するってことですね、そういったやり方でもいいのではないかっていうふうに、御意見としていただいているのも、今の委員の御発言の前半部分と、同様の趣旨ではないかというふうに考えます。

他にいかがでしょうか。皆さんの御意見の端々に出ていると私は思うのですが、やはり若い人はどうしてもLINEとかですね。そういうSNSを非常に新しいメディアとして認識されていらっしゃるようですから、PRの方法で、まず、積極的にFacebookとかLINEとかの形を利用する。先ほどの和光市のような形も。今後、無作為抽出による委員等の候補者名簿を活用する一つにSNSや何かの利用ということも、それだけではないですけど、入れてもいいのかなという気はしますが、いかがでしょうか。

- 委員 無作為抽出のところに限って言うと、おっしゃるとおり、やはりハードルをもう少し下げっていく試みが必要なのかなと思っていて、この参考資料4を見ると、少し硬いという印象をすごく受けます。少し前から市の広報がすごく見やすくなったという印象を個人的には持っていて、PRの仕方がすごくうまくなったというふうに感じるものがあって、あれだとやはりすんなりと入ってくる面があります。で、今回も、仮にいろんな、市民委員というだけではなくていろんなことに参加してもらおうという形でアプローチをするのであれば、もう少しそういう形でのPRの仕方に変えて、例えばこの2年間市政に積極的にあなた参加してもらいます、というような形でPRしていくと。そういうことが翻って、多分市政に参加できている、あるいは参加する権利は少なくとも与えられている、というような感じを受けるのではないかと思います。仮に選任っていうとそこまで多くないですけど、これを2年に1回だから10年で5000人ですけど、人口20万以上っていうことからいったらかなりのパーセンテージになると思いますし、多分今後依頼が来たら、御家族とかにこんなの来たよって言って話が広がると思います。で、そういうところからPRの仕方として、市としてはもうウェルカムですよ、といろんな意見をあなたたちから聞きたいですよってというアピールの仕方が考えられるかなと思いますので、いろんな方から意見が出ているように、この無作為抽出だけだとやはり上からこちらで勝手に決めて機械的に出すという形ですけど、おっしゃるように区会など、そういうボトムアップっていうんですかね、の形でしっかり丁寧に意見を拾い上げていくという方法も当然併用されてしかるべきだろうなと思いますので、いろんな方向から、上から下から横から、左から右から全部を掛け合わせて多様な意見を拾い上げていくというのがいい

のではないかなと考えています。

○座長 ありがとうございます。そうですね、いろんな形で。

○委員 こちらの委員会ではないですけども、たまたま職場のイントラを見ていたら、政策イノベーション部の情報政策課というところがやられている。「Hack My Tsukuba」っていう、こちらの方なんかイベントがあるっていうのが、職場の掲示板に載っていて。もう何回目かなんですよね。それで、つくば市のホームページの方を調べてみたら、中の方に潜ってとても探しづらくなっていて、だからそのホームページのトップページのところからもう少しそういうのをやっていたら見やすくするとか、私が、気が付いたみたいに、職場の掲示板に載っていたから気が付いたので、もう少し周りの企業とか大学とかそういうところに少し協力をしてもらって、つくば市でこういうのを求めていますよっていうのを職場のイントラとかに載せてもらえれば、仕事持っている人がなかなか参加しにくいとか、気がつかないとかっていうのがあったのですが、若い世代とまた若干かぶるのもあると思いますが、そういう周りの企業とかの広報に載せてもらうっていう方法もあるのではないかなと思いました。

○座長 ありがとうございます。ホームページって良いようで悪いですよね、本当に。探せば出てきますが。なかなか目にとまるところに情報が出てこないっていう悩ましい問題もあるので、何とか目につく形っていうのも市民参加っていう観点でも。まあすべての部局が皆同じこと言うのでしょうね。だからもう、トップページは常に大変でしょうけども。ありがとうございます。

○委員 様々委員の方々の御意見と、あまり違いはないのですが、この無作為抽出の委員というふうに限定して考えたら、本来ボトムアップをしていくなら、委員がおっしゃったように区会連合会、区会の方々とか、民生委員とか、様々な団体の意見集約に加えて、ここの、こういう審議会の場合ってすごく少数ですね。ですので、本来であればいろんな地域に分科会的に課題を検討するようなものを設けながら、それを集約していくような仕組みっていうのが一番多分理想的なのかなというふうには思っています。ただ、実際やるとなるとかなり煩雑ですし、どういうテーマについてやるのかっていうことについてもあると思いますが、そういう意味ではこの抽出無作為抽出で同意され

た方ってというのは、それなりにこう、拒否反応があるわけではないと思いますので、この市民委員になっていただく可能性と同時に、モニターとして希望する分野について、年間幾つでもいいのですが、5から10ぐらいの間だと思いますが、実際にこういう審議会で論点になりそうなことについて意見を、こういうことについて今度審議会で議論したいのだけれども、どういう御意見お持ちですかというようなことをお尋ねするってということもあっていいのかというふうに思います。

それからこういう委員の方たちを核にしながら、実際に委員に入っていたかなくても、登録されている方を中心に少し分科会じゃないですけども、なにか意見集約をしていく拠点としての役割を担っていただけるような、そういう役割をお願いするというような形態もいいのかと思いました。

○座長 ありがとうございます。今、無作為抽出による委員の名簿の活用ということで御議論いただいているわけですけど、必ずしも委員として選出されるだけではなくて、市政モニター的な形で、もちろん興味関心あるところに、委員会で今議論している、もしくはする前に御意見伺うといったような形で名簿を活用するというのも重要かもしれないですね。

今、Zoom参加の委員から御意見がありました。PRは常陽新聞、つくば市のケーブルテレビに出してもらうなど、筑西の方だと、群馬のケーブルテレビになりますが、そこで募集することもできるのではないかとということで、メディアを、いろんなメディアを可能な限り利用したらってということではないかというふうに思います。

よろしいでしょうか。次は申込者の年齢について御意見をいただきたいと思います。すでに年齢層を広げる、特に若い人に対して参加してもらうということは、今、いろんな形で御意見いただいたところとかなり重複する部分もあるとは思いますが、とりあえず3ページを御覧ください。このほかに、SNSとか、オンライン会議など、出席する手法に重きを置かず、オンライン会議のような手法をとり、特に若い世代、それだけではなく、今は新型コロナの流行ということで、特に高齢者の方が出てくるのが嫌なので、遠隔手法といますか、オンライン手法で参加できる人であれば、そのような形だったら行くのにとか、意見述べられることができるのにとということもお持ちだと

と思いますが、この辺はいかがでしょうか。やはり参加するハードルをいかに低下させていくか、さすがにハードルをなくすってところはなかなか難しいと思うのですが、ハードルを下げていく努力というのは必要ではないかなと思いますが、例えば、事務局の意見として、夜間休日開催をアピールするとかですね、導入の参加がわかれば意識面のハードルは下げられるのではないかと、楽しそうとか自分にも参加できそうと思えるような内容であれば意識面のハードルは下げられると考えられます。市の委員会で楽しそうっていう議論があるのか、と私は個人的に思わないではないですが、きっとそれは委員長の配慮によるのかもしれませんが。ここら辺は何か、これを足した方がいいとか、いう御意見がありましたらいかがでしょうか。大体重複して、SNS を使うとかですね。一方、若い人にもフェイストゥフェイスという方法は、私は有効ではないかというふうに考えます。参加してよかったとかですね、あと学校等々を利用して、ぜひ行くと面白いよっていうような情報が伝えられる。必ずしも若い人がLINE だけですべてやりとりしているわけではないと思いますので、そういったこともここら辺に入れ込んでいければということで、中学校や高校等で審議会の体験を行うというのは有効な一つの方法ではないかというふうに考えています。では、もしまた後でお気づきの点がありましたら戻っていただくこととしまして、4 ページ目の、審議会等の応募者数についてというあたりに進めさせていただきたいと思います。積極的な情報の発信、参加しやすい環境づくり、市民権の積極的な反映等々と挙げられておりますが、審議会の応募者数をいかに上げていくか、この点についてはどうでしょうか。

○委員 前回、発言した「専門的な内容の会議でも市民目線で取り組む」ということについて取り上げてもらいましたが、ただ、真ん中対応の課題等というところで、(3)の①で、「市担当者側にも負担になる」ということについては、負担になるからやらないということではなく、どのように実施するかという方向にもっていてもらいたいと思います。何度も言いますが、やはり区長会長として、これからもやはり行政とその市民の間をどのようにつなぐかという、そういうパイプ役としての区長会があると思いますので、市側からも、多分区長会からも、そういう意識を持ったリーダーの方が少な

かったのかなど。やはり向き合っていますよね。ですから、そういう事例をまず、そういう積み重ねはやはりやっていかないと、じゃあどうしましょうという前向きの、やはりそういう思考を持っていただきたいなというふうに思います。そのためにはお互い、どのように歩み寄るかというような形をつくっていければなと思います。そういったところで事例を作って展開していくことが必要だと思います。

○座長 ありがとうございます。おっしゃるとおりで、他にいかがでしょうか。応募者数をどう増やしていくかというところで、まず、先ほど来の参加のハードルを下げるというところに尽きてしまう部分はあるわけですが、その中で、もちろん無作為抽出の名簿を積極的に活用するというのはすごく一つのアイディアとしていいわけですが、それだけではなくて、積極的に、市民の方からですね、ぜひそういう審議会があるのだったら自分も委員として参加して、まちづくりに参加したいという市民をどうやって育てていくかっていうことではないかと私は思うわけですが。どうでしょう。

○委員 少しずれるかもしれませんが、今回、市民参加ということで取り上げている内容は、いかに、市民にどうアクションをとるというふうなことになっていますけれど、目を向ける市の、市民の意見をどう引き出すかという市側の努力も必要だと思います。私がつくば市に、まだ桜村の頃ですけど、住み始めた頃は、役場に用事があって行ったときに、暇といたら失礼ですけど、職員の人と立ち話をして、そのちょっとした話の中から要望とかを吸い上げてもらって、それから、上や他の部署につないでということがありましたよね。今の市役所はカウンターがあって、立ち話という感じではないですけど、支所とかで高齢者の声とか、そういう取り組みをしてもらえるといいと思います。どう考えてもこのチラシを配るとか、SNSで発信するとか、やはりある意味上から見ている感じがして。市のほうからも、市民が意見を言っている、伝えていいと思えるような努力をしてもらいたいと思います。

○座長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

○委員 今の御意見、すごく私も思っていて。よく、まちづくりのイベントをするのに市の職員の人とか来ませんかってお誘いしても、いいですねえって言うのですが、いらっしゃらないですね。特に若い人は日々の仕事がお忙し

と思うのですが、御自身を地区のことわかっているかなとか、御自身の地区でどんな活動をしているかということ把握してらっしゃるかなと常々思っています。やはり垣根があるっていう、どうしても市民と行政の垣根をとっばらうには、今の御意見もそのままですけど、行政の皆さんも地区に入っていていただくっていう、ほぼ強制的にでも入っていただくと、すごくハードルが低くなって、いろんな意見がありましたっていうことは職員さんの方もわかるし、すごく、いろんな形で、職員の方も市民の1人だという自分の意識も芽生えて、いい形になっていくのではないかと思います。ですので、もちろんいろんな、先ほど皆さんがおっしゃるように SNS とかホームページとか、そういうものもとっても大事ですけども、やはり、市の職員さんたち自分も伝えていかなければいけないということを、こういうものがあるって、ぜひ参加していただけるといいです。例えば PTA に行きました、そこで皆さんと話しをするときに、こういう子育て会議みたいなあるので、募集してみてもどうでしょうかとか、そういった御意見を言うだけでも、全然考えなかった人が面白そうだという、そういう機会が少しずつ増えていくと思うので、ぜひ職員の方々、特に若い職員の方々をお願いしたいなと思っております。

○座長 はい、ありがとうございます。

○委員 今の御意見聞いていてなるほどと思って、非常にいいと思うので。ただ、多分市の職員の方ってそれがボランティアというか、仕事じゃなく行ってしまうということになると、すごい負担が膨大になると思います。ですので、例えば、市の中でそういうことも仕事の一環として換算してもらえような、例えば若いうちはそういうのにどんどん、その勤務時間というか、仕事として行かせるとかですね。それで地域の現状を十分に把握してもらおうとか、なんかそういうような仕組みづくりみたいな形をとると、今おっしゃったようなところが進む。正直、例えば朝から夜8時9時まで仕事をしていて、さらに休日もそういうところに自発的に参加してくださいっていうとなかなか難しいだろうなと思います。なので、その辺りは多分制度的な取り組みでカバーできる部分もあるのではないかなと伺って思いました。

○座長 先に。

○委員 今の意見に少し加えるのですが、実は私も新人の職員の方をずっと見ていますけど、大変だと思います、市の職員の方。というのは、つくば市って結構イベントが多いですよ。夏祭りとかラーメンフェスだとかごみ拾い、マラソン大会。毎月1回何かイベントをやっているようなそういう御時世ですよ。そこに職員の方皆さん駆り出されていますよね。選挙もありますよね。かなり負担があつて。まして市長がタウンミーティングやる、あっちこっち行く、職員はついていくしかない。そういうのもありますよね。シンポジウムもあり。ですので、なかなか末端のところまで手が回らないのではないかと私心配しています。多分そういうのがあつて、地元の会にも出られない、加えて御自分の教育の問題とかが土日にかぶってくるじゃないですか。なかなかそういうので大変なので、やはり仕組みづくりを考えるべきではないかと思います。

○座長 お願いします。

○委員 委員たちがおっしゃったことについて。地域の中で、住民が話し合える場所がわからないという意見がありました。場所がわかんないっていうのは、表示がされてない。看板がないのでわからないということを利用者から聞きましたので、議員さんをとおして市の方にお願ひしましたら、早速つけていただくようになりました。それは結局今までの、はっきり言ひまして、個人的な偏見を含めて言ひしていただくと、やった人間が、俺がやってやったというようなそういう気持ちがやはり一人一人強かったのではないのかと、そういう、困りごととかについて、やはりきちんとお返しする。結果がこうなりましたよと。やはり、そうすることで市もすごく早く動いてくれた、と。そういう信頼関係がひとつひとつできるのではないかと。それでやはり自分1人で情報をクローズするのではなくて、やはりみんなで共有できる。いい話も困った話もやはり皆さんで。そういう地域、コミュニティが市民の方一人一人がそういう気持ちにどうしたらできるのかなと。さっき委員がおっしゃったように、どうしたら、やはり市側だけに、解決策を出してくださいじゃなくて、市民と、こういう会議体だと思ふのですけれど、本音で、やはり分科会のような会議体も、職員のキャパの問題があるというようなことであれば、地区に分けるとか、分科会というような形で行うということも方法

の一つとしてあるのではないかなと思います。

○座長 ありがとうございます。審議会の応募者数についての話がかなり大きな話に持っていったと思いますが、でも大変重要な点だと思います。今のお話を伺っていて、個人的コメントになって恐縮ですが、市の職員の人的心持ちという観点で話を持ってしまうと、解決できなくなってしまうので、委員がおっしゃったようにシステムとして、どんなシステムを取り入れたら、きちっと今皆さんがおっしゃったようなことが解決できるかっていうふうに話を持っていくべきだというふうには思いました。そのときに、カナダの事例ですけど、公共図書館って、やはりチラシ配って、皆さん言いたいことがあったら言って欲しいとか、こんなサービスが欲しいければ言って欲しいということだと全然図書館が市民の間に入っていないということで、いくつかの州はコミュニティ担当者という職責を設けてしましまして。その人たちが必ず何かやる時はコミュニティ、コミュニティって地区とは限らないのですが、高齢者のコミュニティとか障害者のコミュニティとか、そういうコミュニティに入っていくって、必ず御意見聞いてから企画立案するという役職を作った州がいくつかあります。そのような形で市の方にも、職員数に限りがありますから専任というわけにはいかないと思いますが、要はそのシステムとして動かしていくというような形です。これはその他に該当するでしょうね。4のその他に入れるべき内容かもしれませんが、そんなことをすると少なくともハードルが下がるということになるのではないかなという気がします。

すでにその他、審議会以外の手法でどのように推進していくかというような話に今入っていているわけではありますが、今日のお話を伺っていて、一つは市民と行政のハードルを下げるときに、市の方が積極的に市民の側に入っていく、しかもそのときにはシステム化ということ念頭に置いて欲しいということ。一方、せっかく作った無作為抽出の名簿といったものを単に委員抽出の道具とするだけではなくて、モニターといったような活用方法も含めて、市民の意見を直接吸い上げるといったような形を考えてもいいのではないかと、というあたりの話がすでに出てきていたかと思えますし、または先ほど委員から行政と市民の間をどのようにつなぐといった観点から、うまくいっている成功事例みたいなものを積極的に紹介していくということもい

いのではないかとといった御意見も出てきていたと思います。皆さんの方から、同じ内容だけどもということも含めて、いかがでしょうか。前の方に戻っていただいて、無作為抽出の委員候補者名簿の話でも、また申込者の年齢層を広げるといった観点のお話でも構いません。御意見、いただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

○委員 少し前に戻ってしまって申し訳ないのですが、民間にいた手前、結果っていうのを気にするところで、あるべき姿ですけども、最初のこの図1が右上の方にいけばいいというのが一番、つくば市の望む姿だと思うのですが、わからないのは、先ほども数字が出たのですが、数字というものはわかりやすく、戦略プランの見直しの時も数字でもう少し明確にしたらいいのではないかなって話があったのですが、何件くらい、例えば審議会でどのくらいの意見が出てくれば、それがよろしいのかとか、そういうものがあるのか。例えば何%ぐらいが、20万人のうちの先ほど言ったように、2万人近くの意見が出てくるのがあるべき姿なのか。ただ、その辺は数値的な目標があるのかどうか、よくはつきりしない、そういうのがわかれば、こういった分野にはこういう働きかけとかいうのが出てくるのかと。先ほどの地域的に地域の割合の中で何%近い人たちが参加するという指標みたいなのが、何件くらい。例えば、パブリックコメントだったら年何件ぐらいを目指すのか、その数字が果たしていいか悪いか、どうなのかよくわからないのですけども、そこをお聞きしたいなと思いました。

○座長 事務局、いかがでしょうか。私が記憶している限りで、もし間違っていたら訂正いただきたいのですが、パブリックコメントの件数等の目標は一切なかったと思います。ただ、こうした審議会で市民委員の方の割合は、いつか議論したことがあって、理想的にはこれぐらいですよねって話をした記憶があるのですが、今すぐ数値が出てこなくて申し訳ないのですが、いかがでしょうか。

○事務局 市民参加の数値的な目標ということで、座長がおっしゃったように地域ごとであったり年代ごとであったりというような目標はなく、今数字目標で唯一あるのは、市民、公募委員が参加可能な審議会等の会議については、100%市民委員を採用する。まず、委員のうちの3割程度の市民委員を100%

入れましょうというのが唯一の数字です。委員がおっしゃったようにその他の階層であったり、地域であったり、パブリックコメントを、必ず何件以上を目標にしましょうというのは特に設けておりません。

○委員　そういうものを目標にすること自体がおかしいのでしょうか。よくわからないのですが、やはりこのぐらいいくと市民の人たちが市政に参加しているという目に見える数字なみたいなのが、やはりどこかであってもいいのかなと思ったので。先ほど10%なのか1%なのか。こんなに参加しているって指標みたいなのがどっかに、バロメーターみたいのがあるのかというのがよくわからない。ただ、そういうのがあるって言って、誰か参加していい意見が出てくれればいいんだよってという考え方なのか。その辺が曖昧で、おぼろげで、私もわからなかったものですから。

○座長　繰り返しますが、パブリックコメントは多分目標値ないと思いました。一方で、委員は、市民委員を必ずすべての審議会とか、何とか検討会とか、そういったところに必ず入れる、ということで、そのうち、委員の3割が市民っていう形が目標だということ以外はないと思いますが、一方で、市民であれば特定の人すべての委員会に出て、市民の意見を言うということが、果たして望ましい市民委員としての意見の吸い上げかという部分は、私は個人的には課題だと思っておりまして、そういう意味では無作為抽出という選び方は決して悪くないのではないかというふうに個人的には思っていたりします。もし、そういう数値目標を立てることが市民参加を推進するというような意見が皆さんからございましたら、4のその他というところに、そういった提言を入れ込んでいくってことはありかと思いますが。

○委員　数字というのはマジックがあって、ことに意見というものは数値目標の中には入らないものもあり、個人的には入れてほしくないという部分があります。数値で行くと、賛成か反対か、どちらかに評価が行ってしまうかと思しますので、それは避けてほしい。ただし、市の中にも市民委員として候補に挙げられる場合、2つ以上は市民委員として出られないという条件があったかと思しますので、その所で一人の人がいくつも市民の代表ですという形でいくことはないだろうと思っています。

○座長　ありがとうございます。

- 委員 抽出された委員の候補者名簿の中に登録されている人の中から委員を選ぶのは何か基準ってというのはありますか。どういう形で委員に依頼をする方を選んでいるのでしょうか。
- 座長 事務局、お願いしてもよろしいですか。
- 事務局 無作為抽出から選ぶ際は第一希望から第三希望までの希望だけを見て上から順番にお声がけをしている状況になります。例えば年齢ですとか御住所をうかがっているのですが、そこから選ぶと無作為ではなく作為的になってしまうので、名簿の上から順に、名簿自体もランダムに登録されているものなので、そうした形で選んでいます。ただし、会議によっては女性の委員が必要であるとか、男性の委員が必要であるとか、もしくは何歳から何歳までの委員さんに入っていただきたいなどもありますので、その場合は性別や属性を限定して名簿提供するということがあります。
- 委員 はい、ありがとうございます。明記する必要はないとは思いますが、やはりこういう審議会は時代ですので、ジェンダーバランスとか年齢層とかあるいは居住地とか、そういったものについてあまり偏りが出ないような形に配慮するっていうような一文は、どこかにあってもいいのかなと思いました。
- 座長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。この件に関して。はい、どうぞ。
- 委員 私、環境サポーターというのに入っているのですが、1回登録するとメルマガが来て、いろんなもの、こういうことやっています、ああいうことやっています、もしよかったら参加してください、もし興味があったら参加してくださいみたいなメルマガですけれども、そのように抽出してこういうことになったら協力できるという人とか、それこそ前にパブリックコメント出した人とか、何かの委員になった人とか、もしくは何かのそういう「Hack My Tsukuba」みたいな、そういうところに参加した人とか、そういう方々にもし御希望があればメルマガみたいな形、もしこの内容に興味があったら意見くださいみたいな感じで、メルマガだってそんなに1個のやつ、住所打ち込む最初のあれは大変ですけど。そうしていただくと、手法では見てないけれども、こういうのや、今、パブリックコメントこういうことやっている

とか、そういつてじゃあ少し意見言ってみようかとか、きっかけになるのではないかなと思います。実際私も環境サポーターで連絡が来るのですが、本当に興味があるときしか行かないのですが、こうきているだけで、なんか繋がっているなっていう感じがして心地よいところで、どうしても迷惑って言ったらもう削除して、配信停止っていうのもあるので、メルマガなんて結構いいかなと思います。

○座長 ありがとうございます。広くいろいろICT使ってということですかね。

○委員 パブリックコメントの点に関して一言申し上げたいと思ったのですが、前回、委員から何か冷たいというか、あまりなんか出してもやりがいを感じられないというのを聞いて、そういうことかと思ってハッとしたのですが、私弁護士で以前は法令とかのパブリックコメント手続きっていうのに関して強い関心を持って見ていて、基本的にどういうふうに使っていたかっていうと、その業界団体の要望ですね、こういう要請をしたいという話ですとか、あとは法令解釈について疑義や不備がたまにある場合があるので、ここをこういうふうに改善して欲しいというのを出して、具体的な改善を求めるとか、その解釈の明確化を図るとか、そういう観点でしか見てなかったもので、こういうあっさりとして打ち切られてしまうケースもそんなものだと思って、考えていたところがありますが。本来であればパブリックコメントって、せっかく意見が出たので、その対話で政策への理解を深めてもらうっていう非常に貴重な機会だと思います。ですので、いろんな例を見せてもらうと、これ多分国や、そういったところの回答の仕方を参考に書かれていると思うのですが、少し改善の余地があるのかなと。例えばこの参考資料3の、ここが一番初めに出てきたので、これが極めて悪いというわけではないのですが、つくば市の自殺対策計画で、連絡先についてこういうふうに改善したらいいのではないかというような案に対しての答えが、貴重な御意見ありがとうございますと、よりよい支援の検討を進めて参りますということで、全く回答してないのですよね。多分、改善、今はできないだろうと、こういう意見を出している人も思っているかもしれないけど、なぜそれが今できてないのか、どこに課題があるのか、予算なのか、技術的な問題なのか、あるいは

どこかの合意が得られない限りできないのか、あるいはこういうことやってしまうと逆にデメリットがあるのかとか、こういう、意見が出たタイミングでそういう市の現状を差し障りのない限度において説明してあげるといふ、せつかく貴重な機会を逃しているのではないかなという気がして。なので、もちろん程度問題はあると思いますし、かなりデリケートな問題に関しては答えられない場面も多いのかとは推測はするのですが、可能な範囲でもう少しそういう問いに対して、真正面から答えてあげるといふような回答の仕方の転換があってもいいのかなとは思いました。

○座長 ありがとうございます。そうですね。少なくとも現状がこうなっていると、この観点から難しいって、なかなか行政当局は答えられないのかもしれないんですけど、ちょっと、他意はないですけど、この39ページの最初のコメントは、きっとそんなこと言ったってできませんってことを安易に言っているとしか、読めない部分があるので今後御検討いただければということでしょうか。

○委員 今までの話と少しずれてしまうかもしれないんですけど、私、無作為抽出で選ばれて、つくば市からの手紙が届いて市民委員になったものなので、その立場から言わせていただくと、いきなりつくば市からあなたは市民委員になりますかみたいな書類が届いてびっくりしてしまって、たまたまそのときにコロナ関係で仕事の方がテレワークになって、本来の仕事の方に余裕があったので、市役所に電話して、これどうなっていますかと問合わせして、それで、それだったらやってみたいなと思って応募したのですけれども。やはり、この選ばれた方の身になると唐突感がとてもあって、そこがもう少しわかりやすいといいかなと思います。自分から応募する方とかパブリックコメントを出す方っていうのは、もう積極的に市政にかかわろうって思っている方で、その方たちの意見を拾うのはとても大切なことだと思うのですが、逆に、全然関心ないという人がこの無作為抽出、たまたまこう手紙を受け取ったっていうケースで生まれてくると思うので、そういう人たちが、せつかくだから参加してみようかっていうふうに思えるような仕組みがあったらいいのではないかと。私は今回たまたま選ばれたのでそういうふうに思います。

○座長 ありがとうございます。今、関連して、市民参加にモチベーションを

持ってもらう方法ですが、委員を経験して得たものを過去の市民委員にエッセイにしてもらって読んでもらったかどうかという御意見が出ていて、確かにそれも一つ、PRになるのかと思いました。

まだ御意見あるとは思いますが、お約束の時間にだんだん迫ってきて、ここでとりあえず、市民参加の御意見につきましては、以上で終了したいのですが、市民参加推進に関する提言書につきましては、前回と今回いただいた内容をもとに作成させていただきたいと思います。作成作業につきまして私と事務局に一任ということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。最後にその他ということで事務局から連絡事項が、ありましたらよろしくお願ひします。

○事務局 事務局から、その他ということで、令和2年度（2020年度）行政経営懇談会で扱う案件について追加のお願いがございます。詳細につきまして、政策イノベーション部長から御説明いたします。

○部長 市民参加の提言については、座長と事務局のほうで提言つくってそれでもうセットというわけではございませんので、一応案を作成させていただいて、もちろん委員の皆さんからその案に対して御意見をいただく機会もつくりますので、念のため、先ほどの、それでもうセットという誤解がないようにとお願ひして今補足させていただきました。

その他のお話ということでお願いがございます。もともとこの行政経営懇談会、今年度について市民参加の推進について議論していただいて提言を取りまとめるということをお願ひしておりましたけれども、もう一点、扱っていただきたいと案件がございまして、そちらが今お手元のほうにお配りしております、カラー刷りのものになりますけれども、スーパーシティというものの議論についてです。こちらについて、2回ほど追加で行政経営懇談会を開催させていただいて、ぜひつくば市として、このスーパーシティについてはこの後簡潔に御説明したいと思っておりますけど、どのようなスーパーシティを目指すべきか、ということについて今後案をつくりますけれども、そちらについて皆さんから御意見をいただければと思っております。

【スーパーシティに関する資料に基づき説明】

○座長 今部長から御説明いただいて、スーパーシティ構想に手を挙げるにあ

たってですね、原案はこれからですが、皆さんの御意見を伺いたいその場として、この行政経営懇談会をお借りしたいということですが、御意見、御質問はございますか。よろしいですか。何も皆様から御意見がないということはここで御議論いただくことに同意いただいたというふうに理解してよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 質問ですけど、そうなっていくと、次の回からというのは、今までずっと市民参加について話してきましたけど、市民参加というものは一応終わりですか。それと付随してスーパーシティもやっていこうかなという感じですか。そうすると、今の段階だと、1時間半で市民参加について時間やっていますけど、題目が増えた以上時間も少し時間も伸びたりするのかなと思ったのですけど。

○座長 ありがとうございます。この点につきまして事務局の方でお答えください。

○事務局 今も市民参加について1時間半目安で2時間くらい時間いただいていますけど、基本的には2時間を超えない範囲でやりたいと思っています。今おっしゃっていただいたうちの2番目ですね、市民参加については最終的に提言案を出させていただいて、取りまとめて、最終的には委員の皆さん、座長から市長にそれを報告していただくというプロセスがありますけれども、それと並行して、一つの回の中で提言について議論して、スーパーシティについても話をさせていただくと。半分半分なのか時間の配分はまた後で考えたいというふうに思っておりますけれども、同時並行で動くということになると思います。

一方で、スーパーシティ構想で市が考えていることの中には、こうした最先端技術を使って、どうやったら市民参加を促せるかということも入れようというふうに思っています。ですので、必ずしも分かれたような話ではなくて、先ほど事務局のほうからも言いましたけれども、例えば SNS を使って市民参加を積極的に流すような自治体もございますので、そうしたような取り組みもつくばではできるのかどうかということについて、これから市側で考えたうえでまた御提示させていただければというふうに思っております。

あとはその回数が年度内に5回くらいというふうに御就任いただくときに

御説明していたかと思えますけれども、スーパーシティの案件が入ることによって、1回増えて6回になるかなと思っておりますので、その点について時間は伸びないですけれども、1回増えます。

○座長 当初4回という形で第1回の時に日程をお知らせしたかと思えますが、1、2回増えますが、よろしいでしょうかということです。で、今、シリコンバレーの成り立ちは、地域企業の巻き込みから始まっています。つくばは大学と、NTTの研究所はありますが、スマートシティで有名な、日立、NEC、富士通、NTTデータなどありません。地域の人に伝えるにも、まずは巻き込める地元のIT企業がないのではないのでしょうかという意見が出ていますことを御紹介させていただきます。ということで、では、まずはこの行政経営懇談会でスマートシティについて御議論いただくと、それに伴いまして、少し回数が増えますが、よろしく御協力のほどお願いしますということで、よろしいでしょうか。それではこの他に事務局から連絡事項等ございますか。

○事務局 事務局のほうから御案内させていただきます。メールでもお送りいたしました。第4回の行政経営懇談会の日程についてです。第4回は来年2月5日の金曜日、時間ですが、夜の6時から開催の予定であります。会場はつくば市役所コミュニティ棟1階の会議室ということで、前回会議をした場所になるのですが、こちらについては新型コロナウイルス感染症の件もありますし、今回のように会場が変更になる可能性もありますので、その際はあらためて御連絡させていただきたいと思えます。また、先ほど会議の回数が1回増えるということでこちらから御説明させていただきましたけれども、第5回と第6回の日程調整についてもあらためてさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。以上です。

○委員 ただいま事務局から日程についても連絡ありましたが、何か御質問、御意見等ございますか。よろしいですか。それでは20分ほど超過してしまいましたが、本日予定しておりました案件はすべてこれで終了いたしました。以上で本日の行政計画懇談会を閉会とさせていただきます。皆さん御協力ありがとうございました。良いお年をお迎えください。

《終了》